

吉田 義昭（よしだ・よしあき）

1、プロフィール

脚本家。テレビ、映画、舞台等へ 2,000 本以上の脚本を提供。殊にテレビ・アニメにヒット作が多い。アニメが市民権をえ、今日の隆盛をみる基礎づくりにあずかった。

<生没>

1932(昭和7)年1月8日～1989(平成元)年5月9日

<代表作>

テレビ・アニメ脚本『アルプスの少女ハイジ』『フランダースの犬』

ミュージカル脚本『TOMORROW』

<青森との関わり>

青森市生まれ。県立青森高等学校卒業。

2、作家解説

昭和7年青森市生まれ。昭和25年県立青森高等学校卒業。昭和27年上京。松竹助監督会のシナリオ募集に応募、家城(いえき)巳代冶監督に認められる。これがシナリオライターとしての出発となる。そのころ、松竹では木下恵介が精力的に作品を発表、彼のもとに助監督、シナリオライターたちが集まり“木下学校”を形成していた。その中の1人松山善三に師事し、彼との仕事を続けることになる。執筆シナリオは2,000本以上と多作。守備範囲は、テレビ、舞台、映画と広いジャンルにわたっている。

テレビ関係。

テレビ・アニメ『アルプスの少女ハイジ』『フランダースの犬』の脚本は評判を呼び、国内。海外で数々の作品賞を受賞。この2作によってアニメが市民権をえ、今日の隆盛を極める基礎作りをしたと作者は自負する。他に『銀河鉄道999』『星の

王子さま』、『守のトントたち』は、昭和 59 年度、文化庁こども向けテレビ優秀賞を受賞している。

舞台関係。

着飾った芝居より観客に喜んでもらえるものをモットーに大劇場・商業演劇用の舞台台本を執筆。作品に『赤い椿の物語』、『千鶴という女』（前進座・有馬稲子主演）等がある。また、作曲家いずみたくのミュージカル劇団『フォーリーズ』参加、脚本を提供。『TOMORROW(トゥモロー)』『フアーブル昆虫記』『マジック』（青森でも公演）等がある。

映画関係。

師事した松山善三の仕事に関わり続ける。映画広告の最高賞である、第 37 回（昭和 58 年度）映画広告電通賞を『浪漫の灯はいまも』で受賞する。

脚本以外の出版に随筆『いのちのスケッチ 思いやり』（昭和 62 年）がある。東奥日報夕刊連載の『日向ぼっこ』から 50 編を選び改題して1冊にまとめた。身近に材を取りながら、1編1編が小説掌品を思わせる名筆集である。